



☆ AWC事務局便り 3月特別号 ☆

あの日から10年

東日本大震災から10年が経ちました。

犠牲になられた方々、そのご家族の皆様にご改めて追悼の思いをお伝えいたします。

あっという間の10年でした。あの日のことを私たちは忘れることができません。一瞬にしてご家族や家、仕事、まちを全て流されてしまった方々の理不尽さの中、「私より大変な人がいるから」と周りの人たちのことを気遣いながら前を向き続けていた方々が、大勢いらっしゃいました。本当に頭が下がります。

そしてこの日を思う時、同時に思い出すのはタイから届いた1通の手紙です。私たちの支援先のタイの山の中にまで大震災のニュースが伝わりました。日本中が津波に襲われたと思ったようで、私たちを心配して3月19日に書いたようです。送り主はバンメーランカムスクールで今は低学年の子どもたちのタイ語の指導と、寮母として働いているパッカモンさんです。彼女はこの学校を卒業後、かなり苦勞をして奨学金を得、懸命に勉強して大学まで行きました。私たちの学校建設事業により勉強を続けてこられたという思いから、大学では日本語を専攻したそうです。

漢字にルビがついたこの手紙を受け取り、読み、事務局スタッフ全員涙が止まりませんでした。一人でも多くの子どもたちに勉強の機会を、との思いから協力事業を実施して来ましたが、協力事業というのは一方通行ではなく、双方向のものなのだという事にも心から感動しました。

手紙が届いた10年前にも、皆様にご報告しましたが、改めてここに、この手紙を掲載します。遠い国の山の中で私たちをこんなにも思って下さる人々がいるのです。国際協力事業の素晴らしさと必要性を改めてしっかりと認識し、これまで以上に私たちも事業に力を注いでいきたいと思ひます。



パッカモンさんとマリ代表



中学1年生の時のパッカモンさん（まん中）

2011年 19日 3月

こんにちは。お元気ですか。私もとても元気です。
 私はパッカモンともうします。まだおぼえていますか。
 メンラーカム学校ではたらいっていました。(リボウの先生です)
 できあそいがかいてとてもすみます。でも私はあなたたちには、
 わすれないつもりです。あなたたち(AWC)はとてもしんせつです。
 メンラーカム学校でいろいろごつたいていただきました。学校にたす。
 ほんとうにどうもありがとうごさいました。
 さて、今日本はとてもたいへんで、私もニュースを聞いて、
 とてもびっくりしました。つなみと地震で人があせいにしました。
 こわいです。みんなさん(AWC)はどうですか。私もとても心配です。
 私ばかりでなく、メンラーカムの先生と学生たちまで心配しています。
 あなたとAWCたちが大丈夫ようにとがみさまにお祈りをしました。
 元気よりにがみさまにお祈りをしました。
 さて、私はまだメンラーカム学校ではたらいっています。とてもうれしいです。
 学生たちにたつたいてほろいいます。学生は山の人です。カン人です。
 たいたいたいへん勉強しました。あなたはいろいろごつたいていただきました。今学校は
 よくなりました。ほんとうにどうもありがとうごさいました。
 私は日本語を上手になりたいです。でも今はあまりつがわれないから。
 わすれくなりました。手紙をがうのはまちがいました。とてもすみます。
 さいごに、ほんとうにどうもありがとうごさいました。
 あなたとがごともあつたに気をつけてください。
 いいけんこうしてください。いちばん大切なのはけんこうです。
 さようなら。
 パッカモンより。